

指導ポイント&ヒント

第19課 「わりざんの ひっさん④」

- 【指導内容】 ① (2位数) ÷ (1位数) = (2位数) と余りになる割り算で、「十の位」で割り切れてしまう場合。
- ② (2位数) ÷ (1位数) = (2位数) と余りになる割り算で、「一の位」で割り算ができない場合。

【日本語】 新出表現なし

- 【概念図】 ① (2位数) ÷ (1位数) = (2位数) と余りになる割り算で、「十の位」で割り切れてしまう計算を筆算で解いてみる。

「 $65 \div 3 =$ 」の計算をする。

※「十の位」の商は2で、 $6 - 6 = 0$ となる。
ここに「0」を書き入れたくなる場所だが、それを「書かせない」のがここでの指導。
しかし、③の場面では「0」を書かなければならず、混乱する子どもが少なくない。
どうしても混乱する子どもには、いったん0を書かせ、「05という数字はないよね。」と言って0を消させるとよい。

$$\begin{array}{r} 21 \\ 3 \overline{) 65} \\ \underline{6} \\ 05 \\ \underline{3} \\ 2 \end{array}$$

- ② 数を変えて上記の筆算をする。

「 $86 \div 4 =$ 」を筆算で解いてみる。

- ③ (2位数) ÷ (1位数) = (2位数) と余りになる割り算で、「一の位」で割り算ができない計算を解いてみる。

「 $62 \div 3 =$ 」の計算をする。

※「一の位」の割り算は「 $2 \div 3$ 」となり、割り算が成立しない。その場合、商は0となる。
商が0になることが子どもには違和感があるらしく、この「0」をどこに書くか迷ったり、書かなかったりする子どもがいる。
ここで「2の中にもう3はないから0」という説明をすることが珍しくないが、この意味を理解しているかどうか注意を要する。先生だけが納得しているという場合も少なくない。

$$\begin{array}{r} 20 \\ 3 \overline{) 62} \\ \underline{6} \\ 02 \\ \underline{0} \\ 2 \end{array}$$

4 数を変えて上記の筆算をする。

「 $61 \div 2 =$ 」を筆算で解いてみる。

5 数を変えて上記の筆算をする。

「 $91 \div 3 =$ 」になる文章題を筆算で解いてみる。

6 数を変えて上記の筆算をする。

「 $28 \div 5 =$ 」 「 $52 \div 4 =$ 」 「 $87 \div 2 =$ 」 「 $83 \div 4 =$ 」を筆算で解いてみる。



19課

Unidade 19

ようごとぶん

Vocabulários e frases

ようご	Vocabulários
ちいさい	Menor, pequeno

ぶん	Frases
2は 3より ちいさいので、	Como 2 é menor que 3, ...

19 わりざんの ひっさん④ (2位数) ÷ (1位数) = (2位数)

1

(2位数) ÷ (1位数) = (2位数) で「十の位」の割り算が割り切れる場合の筆算を知る。

65 ÷ 3 を ひっさんで といてみましょう。

かきません。

①まず、□ ÷ □ を かんがえます。

② □ × □ を つかいます。

③ 2 と 6 を かきましょう。

④ 6 - 6 の こたえは 0 です。

0 のときは こたえを かきません。

⑤ 65 の □ を おろします。

⑥ □ ÷ □ を かんがえます。

⑦ □ × □ を つかいます。

⑧ 1 と 3 を かきます。

⑨ 5 - 3 の こたえを かきます。

2

(2位数) ÷ (1位数) = (2位数) で「十の位」の割り算が割り切れる場合の筆算を解いてみる。

86 ÷ 4 を ひっさんで といてみましょう。

かきません。

①まず、□ ÷ □ を かんがえます。

② □ × □ を つかいます。

③ 2 と 8 を かきましょう。

④ □ - □ = 0 なので 0 は かきません。

⑤ 86 の □ を おろします。

⑥ □ ÷ □ を かんがえます。

⑦ □ × □ を つかいます。

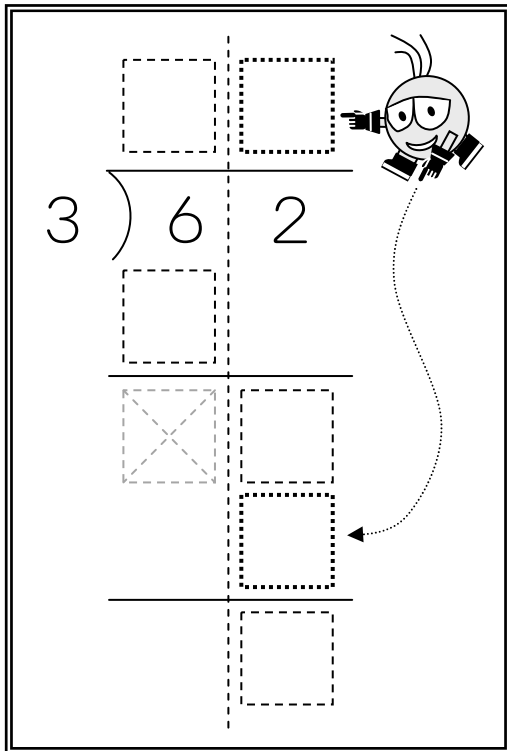
⑧ 1 と 4 を かきます。

⑨ 6 - 4 の こたえを かきます。

3

(2位数) ÷ (1位数) = (2位数) で「一の位」の割り算が成立しない場合の筆算を知る。

62 ÷ 3 を ひっさんで といてみましょう。

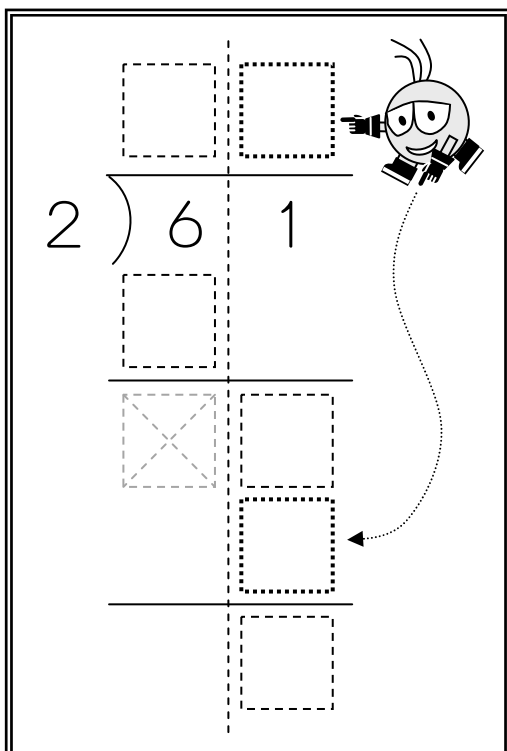


- ①まず、□ ÷ □ を かんがえます。
- ② □ × □ を つかいます。
- ③ 2 と 6 を かきましょう。
- ④ 6 - 6 = 0 なので、0 は かきません。
- ⑤ 62 の □ を おろします。
- ⑥ 2 ÷ 3 を かんがえます。
2 は 3 より ちいさいので、
もう わけることが できません。
そのときは 3 × 0 = 0 を つかいます。
- ⑦ □ に それぞれ 0 を かきます。
- ⑧ 2 - 0 の こたえを かきます。

4

(2位数) ÷ (1位数) = (2位数) で「一の位」の割り算が成立しない場合の筆算を解いてみる①

61 ÷ 2 を ひっさんで といてみましょう。



- ①まず、□ ÷ □ を かんがえます。
- ② □ × □ を つかいます。
- ③ 3 と 6 を かきます。
- ④ 6 - 6 = 0 なので、0 は かきません。
- ⑤ 61 の □ を おろします。
- ⑥ 1 ÷ 2 を かんがえます。
1 は 2 より ちいさいので、
もう わけることが できません。
そのときは 2 × □ = □ を つかいます。
- ⑦ □ に それぞれ 0 を かきます。
- ⑧ 1 - 0 の こたえを かきます。

5

(2位数) ÷ (1位数) = (2位数) で「一の位」の割り算が成立しない場合の筆算「文章題」①

91まいのかみを3にんにおなじかずつ
わけます。ひとりぶんはなんまいになりますか。
また、あまりはなんまいですか。

(1) しきをかきましょう。

$$\boxed{} \div \boxed{} =$$

91まいのかみを 3にんでわけます

(2) ひっさんのかたちにしてけいさんしましょう。

- ① まず、 $\square \div \square$ をかんがえます。
- ② $\square \times \square$ をつかいます。
- ③ 3と9をかきます。
- ④ $9 - 9 = 0$ なので、0はかきません。
- ⑤ 91の \square をおろします。
- ⑥ $1 \div 3$ をかんがえます。
1は3よりちいさいので、
もうわかることができません。
そのときは $3 \times \square = \square$ をつかいます。
- ⑦ \square にそれぞれ0をかきます。
- ⑧ $1 - 0$ のこたえをかきます。

(しき)

$$\boxed{} \div \boxed{} = \boxed{} \text{あまり} \boxed{}$$

(こたえ)

ひとりぶんは $\boxed{}$ まいで、 $\boxed{}$ まい あまります。

6

いろいろなケースに当たり、(2位数) ÷ (1位数) の筆算に慣れる。

つぎのわりざんの こたえを もとめましょう。

①

$$\begin{array}{r}
 \square \\
 5 \overline{) 28} \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \square
 \end{array}$$

12 課

②

$$\begin{array}{r}
 \square \\
 4 \overline{) 53} \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \square
 \end{array}$$

18 課

③

$$\begin{array}{r}
 \square \\
 2 \overline{) 87} \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \square
 \end{array}$$

本課

④

$$\begin{array}{r}
 \square \\
 4 \overline{) 83} \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \underline{ \square } \\
 \square \\
 \square
 \end{array}$$

本課